

くすり一口メモ

## 第2世代抗ヒスタミン薬と気管支喘息

抗アレルギー薬はかゆみを伴う皮膚疾患，アレルギー性鼻炎，アレルギー性結膜炎，花粉症など適応症の広い薬剤で，最近では第2世代抗ヒスタミン薬として分類されています。蕁麻疹，皮膚疾患に伴う痒み，アレルギー性鼻炎はすべての第2世代抗ヒスタミン薬に適応がありますが，気管支喘息の適応がある薬剤は限られています。また，同一成分でも剤型の違いにより，気管支喘息に適応のないものがあります。そこで今回は，第2世代抗ヒスタミン薬の中で気管支喘息に適応がある薬剤についてまとめてみました。

一般名 (主な商品名)	用法用量	特徴
塩酸アゼラスチン (アゼブチン) 錠剤：0.5mg, 1mg 顆粒：0.2%	気管支喘息：1回2mg その他：1回1mg 1日2回	・主に肝臓で代謝。 ・味が苦いため味覚異常が現れることがある。 ・Tmax：6時間 T <sub>1/2</sub> ：16.5時間
塩酸エピナスチン (アレジオン) 錠剤：10mg, 20mg 内服液：2mg/ml ドライシロップ：1%	気管支喘息等：1回20mg アレルギー性鼻炎： 1回10～20mg 1日1回	・主に腎臓から排泄。 ・錠剤と内服液のみ気管支喘息の適応。 ・水溶性のため中枢への移行が少ないので，眠気が起こりにくい。 ・作用時間が長く1日1回投与でよい。 ・肝障害のある患者には慎重投与。 ・Tmax：1～1.7時間 T <sub>1/2</sub> ：4～5時間
オキサトミド (セルテクト) 錠剤：30mg ドライシロップ：2%	成人：1回30mg 小児：1回0.5mg/kg (1回最高量0.75mg/kg) 1日2回	・主に肝臓で代謝。 ・妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には禁忌。 ・ドライシロップのみ気管支喘息の適応。 ・Tmax：3.3時間 T <sub>1/2</sub> ：5.2時間
フマル酸ケトチフェン (ザジテン) カプセル：1mg シロップ：0.2mg/ml ドライシロップ：0.1%	カプセル：1回1mg 小児：1回0.03mg/kg 1日2回	・主に肝臓で代謝。 ・てんかん等の痙攣性疾患，又はこれらの既往歴のある患者には慎重投与。 ・Tmax：2.8～3.4時間 T <sub>1/2</sub> ：6.2～8時間
メキタジン (ゼスラン) (ニボラジン) 錠剤：3mg 小児用細粒：0.6% シロップ：0.3mg/ml	気管支喘息：1回6mg (小児1回0.12mg/kg) その他：1回3mg (小児1回0.06mg/kg) 1日2回	・主に肝臓で代謝。 ・フェノチアジン系化合物及びその類似化合物に対し過敏症の既往歴のある患者，緑内障のある患者，前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者には禁忌。 ・腎障害のある患者，高齢者には慎重投与。 ・Tmax：5～8時間 T <sub>1/2</sub> ：32.7～38.6時間

ここに挙げた薬剤は，すでに起こっている発作を軽減する薬剤ではなく，発作を予防する長期管理薬です。効果発現までには個人差がありますが2～6週間が必要です。また，気道炎症の抑制，吸入ステロイド薬を減量する効果もあります。

【参考文献】・今日の治療薬2005  
・各種添付文書  
・薬局Vol 56 2005年1月増刊号  
(鹿児島市医師会病院薬剤部 柿本 智広)